
心

槇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心

【著者名】

槇

N3862D

【あらすじ】

主人公の小森千奈は、田中優利に恋をした。突然、田中優利に告白され…

初めて（前書き）

まだ、途中ですが呼んで下せー。

初めて

もし彼が生きてたら、今日で19歳。

一三年前

見事に高校進学した私はいま自己紹介中。

「えー。鈴木美波ですじゃあ、よろしくお願いします」
はあ。

ああ。

なんで、あいつと違うクラスなんだろう？

自己紹介。

次隣の人だ。

「俺は！長嶺隼人です！好きな食べ物は、カレーです！」

子供だあ！？

「鈴木さん！美波つてよんديいい？？」

うわ！

馴れ馴れしいな！？

「別にいいよ。」

「じゃあ！俺の事も隼人って呼んでな？！」

「えー…私は、長嶺君って呼ぶ。」

私が名前で呼ぶのは親しい人だけだ。

その時、隼人は少し嫌な顔したね。

私は全然気づいてあげれなくてごめんね。

「まあ。いいや…よろしくな！」

それから、私達はすぐ仲良くなった。

「雪～！梨花～！」

「美波！」

雪と梨花は、高校入つてからの初めての親友。

「竜也が…」

「竜也が何？？」

竜也は、私の好きな人。

愛してゐる、この言葉はあいつの為にあると私は思つてゐる。

「竜也から聞いたけどあいつ彼女いるって。」

時が止まつた。

胸が高鳴る。

体が震える。

「美波…？」

「雪、梨花…」

「美波！」

梨花は私を優しく抱きしめた。

「うう…」

竜也は、彼女がいる。

私は何にもわからなかつたよ。

「美波…泣いてんの？」

長嶺君だ。

私は、涙をふいた。

「泣いてないです！！」

「ふつー！」

長嶺君は笑つた。

「俺に、なんかできる事があつたら叫びてな

あなたは、こんな時も優しかったね。
竜也…。

竜也の隣はいつだつて私と思つてた。

「うん…あっがとう長嶺君」

夜。

（ ）

竜也だ。

（今日、どした！？お前泣いてたけどーーー？）

胸がいたい。

（あれー！転んじゃつた）

あんたが、彼女いるからなんて言えない。

（ ）

（まじでー、どうだなー、泣き虫やつ）。（ ）

私、転んだくらいで泣かないし。

（すいませんねー、じやあ、私もつ寝るから。）

）　）

着信。　

竜也。

一ペシー

「美波……？」

「うん…何??」

少し冷たくする私。

「話したい…つーか話したいと思って」

ドキンドキン。

やめてよ。

やめてよ。

本気にしてみよう。

「彼女いるんでしょ?いいの?」

「はっ…?いなにカバ?」
え…。

どうこう事。

「だつて…雪が!?」

「あー…あれ…あれば、ウソだよ…」

胸が高鳴る。

「え…」

「雪に言えば、みんな広がると思つたんだよ…」「みんな

「なんで…？」

「彼女がいるつて噂があつたら、俺に告る人少しあ減るかな～みたいな感じだ」

竜也はもてる。

「ナルシストか！？」

「「めん、「めん

心配した。

「お前…」

「ん？」

声のトーンが落ちた。

「隣の席の奴と仲いいんだな…」

「~~部長~~君…？仲いいよ」

「俺とは…」

「へ？？」

聞こえない。

でも、電話のむこうの竜也が悲しそうな声をしていた。

「なんでもなーーー！」めんせるな

「うん…バイバイ…」

竜也に、彼女が居なかつたことが何気に嬉しくてでも、電話の竜也の態度がとっても心配だった。

ー次の日ー

「美波ー」めんね

「ひーん…『氣にしないしー…』

雪が、竜也の事をあやまりに來た。

「私、緊張したよ。竜也から電話きたとわ」

「せつかあよかつたじゅんー！」

だよね…

よかつたんだよね…

「ウニ！」

竜也好きだよ。.

「でも！ ヤツパリ竜也が嘘ついたのが悪い！」

雪の一言。

「うるさいだよなー！竜也が悪いー！」

「俺の何が悪いんだ？」

「アーティストの才能を発揮するには、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3862d/>

心

2010年12月18日17時37分発行